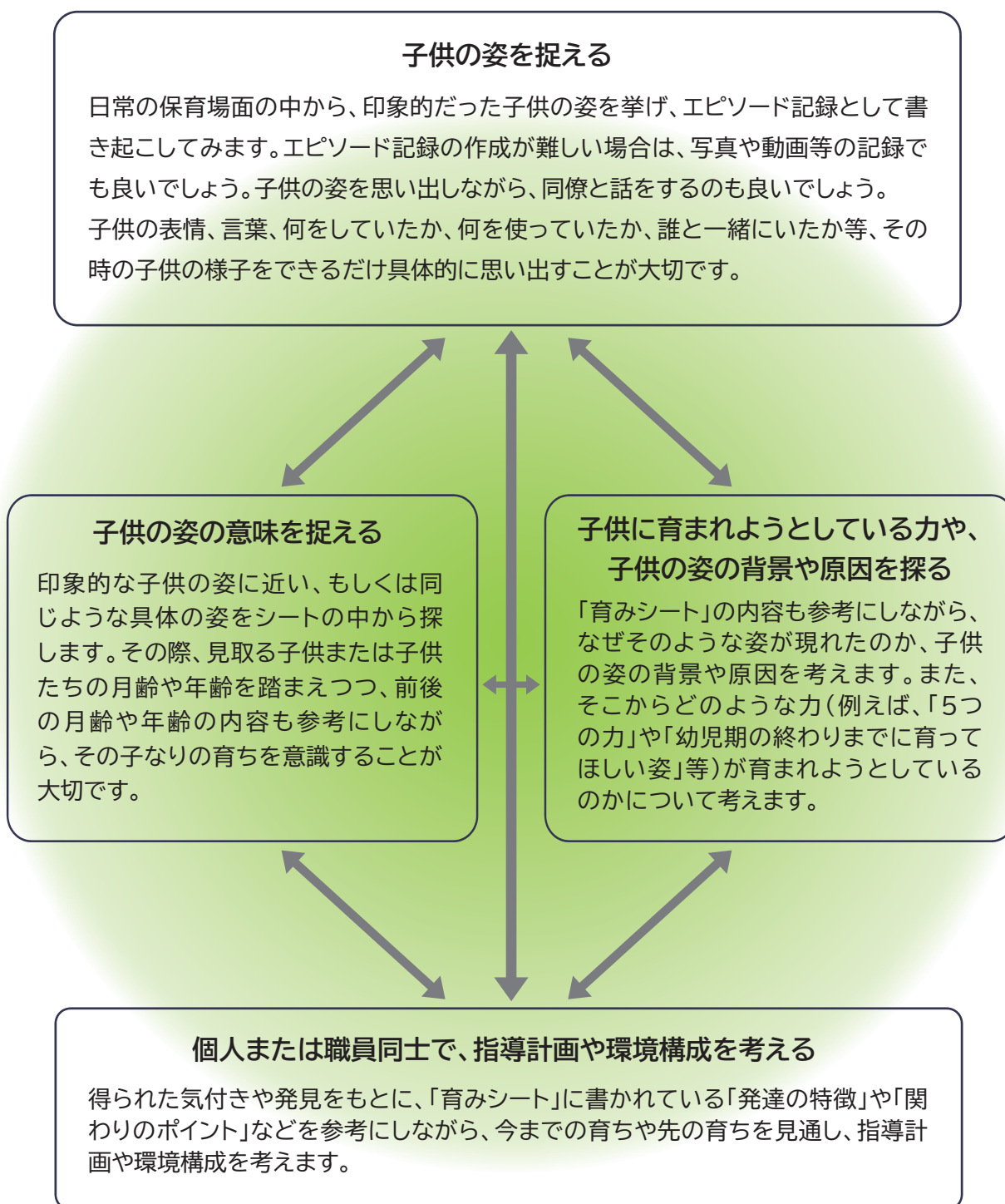


(3) 『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育みシートを使ってみよう！  
～「育みシート」を活用した見取り・振り返り・保育改善の手順～



見取りの手順は、一通りではありません。  
また、それぞれの手順を往還することで見取りが深まっていくため、各項目を矢印でつないでいます。  
見取りの際は、個人及び所属園・所等が実施しやすい手順で進めてください。

## 見取りの手順の例

### ①子供の姿を捉える

エピソード記録の中で、特に印象的なことや、「育ちにおいて大切な姿だ」と思う箇所を下線を引きます。

#### 1歳8か月のエピソード記録 「あれ？影ないね」

やわらかな朝の陽射しが保育室に降り注ぎ、子供たちが、風に揺れる窓際のカーテンの影を見つめている。手で押さえてみたり、影を捕まえようとしていたりして、揺れるカーテンに隠れたり現れたりする影を、興味津々で見ている。

影がなくなると不思議そうに、「あれ？」と、どこに行ったかを探したり、「ないね、ないね。」と、なくなった影を確認しようとしていたりする姿が見られる。

「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かし、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。みんなも、それぞれ自分の手を動かし、手の影を追ってみる。

風が吹いて影ができると、顔を見合わせて笑い合い、「やったー！」と喜んで、カーテンの影の動きをじっと見ている。カーテンの動きによってできる影の動きが面白く、影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしていたりしている。

一人の子供が影を隠そうとすると、まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、みんなで影を隠そうとしている。

「不思議だね。なくなったね。」と声をかけてみると、みんなで顔を見合わせ、笑い声がたくさん出てくる。

みんな、影を隠すことに夢中になっている。



床に映る黒い影に気が付いて、ずっと目で追っていたのが印象的だった。

A児は、それまで影に気付いていなかったけど、保育者が声をかけたことで、みんなと同じように影を確かめていた。

最初は影を探していたのに、途中から影を隠そうとすることに変わった。しかも、手だけでは隠れなくて、体を使い始めたのは驚いた！

最後はみんなで笑い合い、楽しそうだった。

### ②子供の姿の意味を捉える

①で下線を引いた箇所に該当する姿を、「育みシート」の中から探します。その際、見取る子供の月齢や年齢を目安にしつつ、前後の月齢や年齢の具体的な姿も参考にします。

1歳児	2歳児
基本的な運動機能や指先の機能が発達し、自分でできることが増えてくる	自我が芽生え、自己主張することが多くなる
安心して探索活動をしたり、伸び伸びと体を動かして遊んだりできるような環境構成を整える	「自分でやりたい」という思いや願いを尊重して、適切な気持ちで受容する
<p><b>健康</b></p> <p>ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活リズムやペースに応じた食事で、食べたい気持ちを尊重してもらいながら、食べることを楽しむ</li> <li>食べ物の好き嫌いが始めるが、自分の好きなものは、進んで食べようとする</li> </ul> <p>自分の意思で移動することを喜び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>つかまり立ちや、つたい歩き、手押し車などを使得って、自分で動くことを楽しむ</li> <li>高い所に登ろうとしたり、障害物をまたいだりするなど、全身を使う動きに挑戦し始める</li> </ul> <p>自我の芽生えと広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分がやりたいこと、やったことを身近な人に発表、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る</li> </ul> <p><b>人間関係</b></p> <p>満足感を味わう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>積み木を積み上げた時などに、「自分でできた」という表情を見せ、それを受容してもらうことで、繰り返しを楽しむ</li> </ul> <p><b>環境</b></p> <p>周りにものに関わろうとする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で移動することで視界が広がり、人やものとの出会いが増えていくにつれ、探索活動が盛んになる</li> </ul>	<p>1日の生活の流れに見通しをもつようになる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な大人に励ましてもらったり、一部手伝ってもらったりしながら、食事、衣服の着脱、おもちゃの片付けなどの身の周りのことを自分ですらうとする</li> </ul> <p>身体を動かすことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の興味や関心に応じて自由に歩く、走る、跳ぶなど十分に体を動かす</li> <li>遊具を使った遊びを楽しむ</li> </ul> <p>安心して行動する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受容的、応答的な関わりを支えられて自分がやりたいことをする</li> <li>保育者が安全に配慮しながら見守り、やりたい気持ちを認め、支えてくれる中で、安心して様々なことに自ら関わろうとする</li> </ul> <p>友達の存在を意識し始める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみをもち、自ら関わろうとする</li> <li>保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ</li> <li>自分の思いを主張しながら、友達と衝突したり葛藤したりする</li> </ul> <p>身近な自然物に気付き、親しみをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者と共に様々な生き物や草花に出会い、見たり触ったりするなど、興味をもって関わる</li> <li>保育者の優しい問いかけや関わりの中で、自然や生き物も大切だと気付くようになる</li> </ul> <p>身近なものの違いに気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びの中で色や形の違いに気付き、集めたり分けたりしながら遊ぶ</li> <li>保育者や友達とのやり取りの中で、食料や植物などに興味をもち、大きさや形、量の違いなどに気付く</li> </ul>

### ③子供に育まれようとしている力や、子供の姿の背景や原因を探る

エピソード記録と「育みシート」の内容を見比べながら、この場面で子供にどのような力が育まれようとしているのか、また、そのような姿が見られた背景や原因は何かを探り、保育者の関わりについて考えます。

#### 1歳8か月のエピソード記録「あれ？影ないね」

やわらかな朝の陽射しが保育室に降り注ぎ、子供たちが、風に揺れる窓際のカーテンの影を見つめている。手で押さえてみたり、影を捕まえようとしたりして、揺れるカーテンに隠れたり現れたりする影を、興味津々で見ている。

影がなくなると不思議そうに、「あれ？」と、どこに行ったかを探したり、「ないね、ないね。」と、なくなった影を確認しようとしたりする姿が見られる。

「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かし、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。みんなも、それぞれ自分の手を動かし、手の影を追っている。

風が吹いて影ができると、顔を見合わせて笑い合い、「やったー！」と喜んで、カーテンの影の動きをじっと見ている。カーテンの動きによってできる影の動きが面白く、影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしたりしている。

一人の子供が影を隠そうとすると、まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、みんなで影を隠そうとしている。

「不思議だね。なくなったね。」と声をかけると、みんなで顔を見合わせ、笑い声がたくさん出てくる。

みんな、影を隠すことに夢中になっている。



感じる・気付く力

人とかがかわる力

うごく力

<p><b>自らの理生えと伝わり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分がやりたいこと、やったことを身近な人に受容、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る</li> </ul>	<p><b>友達との存在を意識し始める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみを持ち、自ら関わろうとする</li> <li>保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ</li> <li>自分の思いを主張しながら、友達と衝突したり葛藤したりする</li> </ul>
<p><b>人間関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことは自分でしたいという思いが強くなり、それが伝わらなかった時には、泣いたり、激怒を起こしたりする</li> </ul>	<p><b>身近な自然物に気付き、楽しみをもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者と共に様々な生き物や植物に出会い、見たり触ったりするなど、興味をもって関わる</li> <li>保育者の楽しい問いかけや関わりの中で、自然や生き物も大切だと気付くようになる</li> </ul>
<p><b>環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で移動することで獲得力が上がり、人やものの出入りが増えていくにつれ、興奮活動が盛んになる</li> </ul>	<p><b>身近なものの違いに気付く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びの中で色や形の違いに気付き、集めたり分けたりしながら遊ぶ</li> <li>保育者や友達とのやり取りの中で、食料や植物などに興味を持ち、大きさや影、量の違いなどに気付く</li> </ul>
<p><b>周囲のものに関わろうとする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心があるものの方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする</li> <li>ゆったりとした雰囲気の中で絵本を読んでもらうことを喜ぶ</li> </ul>	<p><b>思いや感情を言葉にする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「これはなあに？」など、自分の興味や関心があるものやことについて尋ねる</li> <li>「嬉しかったよ」などの感情を言葉や態度で伝える</li> <li>身近な人についてほしいことや、自分でやりたいことなどの思いを受け止めてもらいながら、言葉や態度で表し、やり取りを楽しむ</li> </ul>
<p><b>言葉が少しずつ増えてくる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ハイハイ」や「よういり」など、生活に必要な言葉や行動め、少しずつ増やしていく</li> </ul>	<p><b>ごっこ遊びを楽しむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びの中で、イメージをもちながら道具などを使い、周りの人と言葉のやり取りを楽しむ</li> <li>周りの大人と同じもので遊び、会話などをする中で、言葉の意味が分かるようになっていき、言葉を使うことを楽しんでいく</li> </ul>
<p><b>表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な大人に自分の思いや、やったことを伴ってもらうことで、声や言葉、身振りで伝えるようになる</li> </ul>	

事例からの引用

・「Aちゃんの手の影も映っているよ」と声をかけると、A児(1歳8ヶ月)は、不思議そうに手を動かして、自分の手の影ができたことを発見し、確かめている。

・影が動くのを追うように手で押さえたり、腹這いになって体で影を全部隠そうとしたりしている。

シートからの引用



保育者A

#### 周りのものに関わろうとする

・身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心があるものの方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする

「私が声をかけたことで影の変化や違いに気付くことができたのかな？」  
「手や体を使って全身で動いたり、自分から影に向かっていったりしている！」

事例からの引用

・顔を見合わせて笑い合い、「やったー！」と喜んで、

・まねをして同じように手を当てたり、寝転んで影を隠したりしてはしゃぎ、みんなで影を隠そうとしている。

シートからの引用



保育者A

#### 友達との存在を意識し始める

・生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみを持ち、自ら関わろうとする

「友達のまねをしたり、顔を見合わせて笑い合ったりする姿が、最近増えてきているのは、少しずつ友達との存在を意識し始めているのね！」

#### ④個人または職員同士で、指導計画や環境構成を考える

①～③までに得られた気づきや発見をもとに、「育みシート」に書かれている育ちを俯瞰し、指導計画や環境構成を考えます。

##### 「育みシート」(乳児版)からの引用

###### 自我の芽生えと広がり

・自分がやりたいこと、やったことを身近な人に受容、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る

###### 満足感を味わう

・自分で移動することで視界が広がり、人やものとの出会いが増えていくにつれ、探索活動が盛んになる

###### 周りのものに関わろうとする

・身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心があるものの方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする

###### 語彙が少しずつ増えてくる

・身近な大人に自分の思いや、やったことを代弁してもらうことで、声や言葉、身振りで伝えるようになる

###### 友達の存在を意識し始める

・生活や遊びを共にする中で、友達に興味や関心、また親しみをもち、自ら関わろうとする

##### 保育カンファレンスにおける、保育者の発言例



保育者A

「確かに、今は活発に動けるようになって、周りのものに関わろうとする姿が増えてきています。今回、カーテンの動きに目を留めたというのも納得。」

「そうだね。子供の変化や違いに気付いて、保育者が声をかけるっていうことが大事だね。それが、受容的・応答的な関わりということなんじゃないかな。」



保育者B



保育者C

「そういった関わりを意識するためには、子供の姿から、今どんなことに興味をもって、何を楽しんでいるのかを読み取って、それを言葉にして声をかけることも、引き続きやっていくといいわね。」



保育者A

「そうなんです！だから、今度、形の違いに気付いてもらおうと思って、身近なもので影遊びをしようと思っているんですけど、どうですかね？」

「僕は『勝手に物が動く』ことにも興味をもったんじゃないかと思ったよ。」



保育者D



保育者A

「確かに、そこも楽しいと感じたのかもしれないですね！  
例えば、風で動く落ち葉を遊びに使うとか？外でなら体を使った影遊びもできるかも？」

「そもそも、その時に物や形の変化が楽しかったのは、一人ではなかったことが、大きなキーポイントのような気がするんですけど…。もしかしたら、他のこともそうかもしれないけれど、一人で遊んでいるときでも、子供たちって常に保育者や友達を意識していますよね？」



保育者B



保育者A

「そうですね。私だけでは見えなかった視点がたくさん見えてきました！  
次は影遊びも形や変化を楽しみながら、友達と関わられるような環境構成を考えてみます！」



今までは、今は、次は、確かに、だから、他には、例えば、もしかしたら～かもしれない、そもそも、等の、話し合いを深めるための言葉を用いて、子供の姿の背景や原因を探りながら、保育カンファレンスを行うことで、子供理解から保育内容の改善・実践につなげていきましょう。